

令和3年度大阪府立泉大津高等学校学校運営協議会（第2回） 議事録

日 時：令和3年12月8日（水）11:00～12:30

場 所：大阪府立泉大津高等学校 会議室

出席者：湯峯委員、西村委員、秋山委員、岡委員

山田校長、下澤事務長、林教頭、森岡首席、徳永首席

議題

- ① 授業見学（2－2 古典B）について
- ② 令和3年度学校経営計画の進捗状況について「IMPTからの報告」
- ③ 令和3年度学校教育自己診断結果 報告

質疑応答・意見交換

Q. 観点別評価を進めていくうえで教員からさまざまな意見があったのではないか。（会長）

A. 先生方は様々な学校から来られているので、以前の学校と方法が違うことで戸惑うこともある。丁寧に説明や議論を重ねていく必要がある。（首席）

A. 課題のある生徒や成績不振者に対して、引き続き学びの保障の場面を作っていくことに変わりはない。（校長）

Q. 各教科の目標はどのように決めているのか。（委員）

A. 教科の中で議論を重ねている際中である。これからはその目標に対して、定期考査だけでなく、協働的に取り組んでいることや課題に対して思考していることなどを評価していくことになる。（首席）

Q. (授業見学に対して) 点ではなく、面での授業改善はどれくらいすすんでいるのか。（委員）

A. 今日の授業者は、授業充実に向けて先進的に取り組んでいる先生の中の一人である。全員の先生が授業充実に踏み込んでいけるように勉強会などを開いて、多くの先生と交流している。（首席）

Q. 中学での観点別評価の様子はどうか。(校長)

A. 小学校では力が伸びている報告もある。一方で中学は、入試のために「知識・技能」に力を入れざるを得ない側面もあり、悩ましい現状がある。それは高校も同じ悩みを持たれているのではないのでしょうか。(副会長)

Q. 保護者の立場として（授業や観点別評価）はどう感じるか。(会長)

A. 一人ひとりが深く授業に取り組んでいる様子があった。評価が入試につながるかどうかについては、心配な部分もある。(委員)

Q. 学校教育自己診断で支援教育関係の数値が伸びているのはなぜか。(会長)

A. 時間割に支援委員会を組み込んで、週1回情報交換を行っている。またスクールカウンセラーを効果的に活用できていることも主な要因であるとする。(首席)